

## 本の紹介



# 『わたしが「カルト」に？ ゆがんだ支配はすぐそばに』

日本基督教団仙台宮城野教会牧師  
「異端・カルト対策」担当講師 齋藤 篤

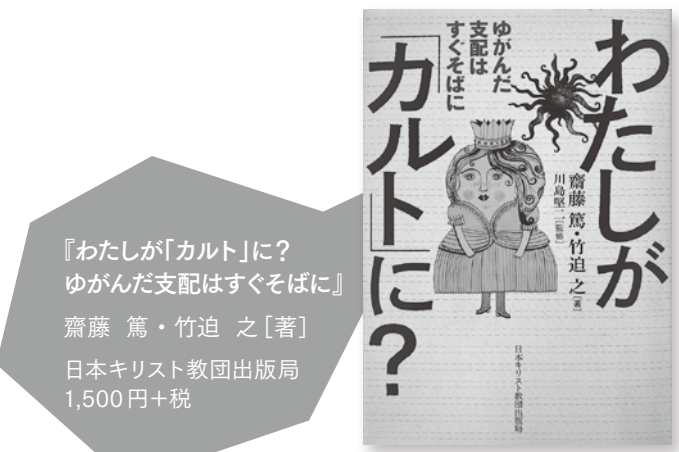
このたび、日本キリスト教団出版局より、上記タイトルの書籍を出版しました。元統一協会信者である竹迫之牧師（日本基督教団白河教会）と元エホバの証人信者である齋藤による共著であり、監修を東北学院大学教授の川島堅二先生にお願いしました。三者とも、長年カルト問題に取り組んできたなかで、さらなる理解をひとりでも多くの方々に深めて欲しいとの願いによって、今回の出版となりました。

昨年7月に、安倍晋三元首相が銃撃されて以来、旧統一協会をはじめとするカルト宗教に関する報道が連日なされることによって、私たちのあいだで大きな関心の的となったわけですが、果たしてこの記事を読んでおられる皆さんは、どのような印象をこれまで持たれたでしょうか。「旧統一協会と私たち教会と一緒にされて甚だ迷惑である」とか「私たちの教会はカルトからは程遠いから大丈夫」などの声をよく聞きましたし、カルトと「異端」や「オカルト」の区別がつかないままにその言葉を用いるといった状況をしばしば見かけることがあります。

カルトとは何かという問いに対して、本書では「ゆがんだ支配構造」と定義づけています。つまり、支配・被支配という言葉が、私たち人間社会に存在している以上、宗教だけにとどまらないあらゆる分野に「カルトなるもの」が、私たち一人ひとりの心に潜在しているということです。ですから「カルトは私とは無関係である」というわけにはいきません。関係ないと思っているうちに、無意識のままにゆがんだ支配・被支配関係が作り上げられてしまう。ここに、カルト化が始まるということなのです。本書では、そのことをあらゆる角度から取り上げることで、カルトについて総合的に解説しています。

また、本書では著者である竹迫牧師と私が、どのような経緯でカルトにかかわり、そして脱すことができたかについての「証し」が収録されています。また、最

近何かと話題となっている「二世問題」についても、元エホバの証人二世である私の妻がコラムを執筆しています。つまり、本書はカルトに関する解説書のみならず、信仰書としても読むことのできる一冊です。ぜひ、お手にとってご一読くだされば幸いです。



『わたしが「カルト」に？  
ゆがんだ支配はすぐそばに』

齋藤 篤・竹迫 之 [著]  
日本キリスト教団出版局  
1,500円＋税

### 公開講座のご案内

2024年 2月5日(月)、6日(火)  
19:00～21:00

「異端・カルト対策」講師：齋藤 篤

「異端」はもとより「カルト」との共通点や相違点などを踏まえながら、総合的に理解を深めていきます。

\*Zoomまたは、教室での受講が選べます。参加無料。

\*申込は、学校ホームページから申込フォームを送信してください。自動返信でZoom受講に必要な、ID、パスワード等を送ります。

\*テキストとして『わたしがカルトに？』を用いる予定です。



### トピックス Topics

#### ●公開講座

『家庭でも教会でも、すぐにケアに活かせる統合失調症・うつ病の“いろは”』

2024年  
◆3月2日(土) 13:00～15:00

「統合失調症の“いろは”」  
講師：石丸昌彦（放送大学教授、CMCC副理事長）

◆3月4日(月) 19:00～21:00

「うつ病の“いろは”」  
講師：芳賀真理子（駒込えぜる診療所院長）

\*聴講無料。  
\*JTJ教室での対面受講か、Zoomでの受講が選べます。  
\*聴講の申込は、JTJホームページから。

#### ●新約聖書講解シリーズ（岸 義紘著）のお知らせ

◆「へブル人への手紙」  
B5版／510頁／3,520円(税込・送料込)  
2024年1月上旬発売予定。

◆昨年度刊行された『マルコの福音書』をスキャンしてPDFデータ化し、USBメモリーに収めたものを販売いたします。  
1,118頁／3,300円(税込・送料込)  
（『マルコの福音書』の書籍としての再版予定はありません。）

\*ご注文はJTJホームページから、右記QRコードの注文ページから。



お問合せ・各申込先

JTJ宣教神学校

TEL.03-3842-3412

E-mail:jtj@jesustojapan.com

### ハウスチャーチ便り

第47号

#### ハウスチャーチを始めましょう！

2000年度 牧師志願科卒業 小平 渉  
watarukodaira724@gmail.com

「また、十二弟子を呼び、ふたりずつ遣わし始め、彼らに汚れた霊を追い出す権威をお与えになった。」(マルコによる福音書 6章7節)

クリスチャンである私たちは皆、神様から聖霊を受けている祭司です。イエスの名により二人、三人が集まるところは教会(コイノニア)です。そこではみ言葉が読まれ、主への賛美がなされ、祈りが捧げられ、礼拝が行われます。ときには、パンが裂かれ葡萄酒が注がれ、イエスの十字架の恵みを確認します。さらに結婚式や葬儀も執り行われます。ハウスチャーチの原型です。

二人、三人が集まったらハウスチャーチを始めましょう。必ずしも日曜日に行う必要ありません。お互いの都合の良い時に、ただ定期的に行うのが良いでしょう。場所は公園、喫茶店、カラオケボックス等、教会堂でないところでもオーケーです。



#### ★JTJ宣教神学校ホームページ

https://jesustojapan.com  
スクーリング、公開講座等のお申し込みがこちらからできます。学生・卒業生用ページを設けています。



#### ★LINE公式アカウント

公開講座、Zoomセミナーなどの案内をお伝えしていきます。どなたでも登録できます。



#### ★LINE公式アカウント（学生専用）

講義日程の変更やスクーリングなどの案内をお伝えしていきます。



#### ★JTJ YouTubeチャンネル



#### ★Instagram



#### ★学校公認 Twitter「小さな神学生」



#### ★学校公認 Tik Tok

「聖書・キリスト教のここが聞きたい!」



#### ★JTJ YouTubeの姉妹チャンネル

「ひとつぶのむぎ」

今号の「まあるい地球からのHOT便」の著者、鈴木陽子さんが主催するディボーションチャンネル。



## 父なる神の愛

学長 重田 稔仁

「イエスは洗礼を受けて、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。」

(マタイによる福音書 3:16-17 新共同訳)

「父となる旅路」(豊田信行著)、タイトルからして胸をざわつかせる本。手にしてこれは私の人生のマイルストーンになると予感。腰を据えてじっくり読もうと心に決めた。のっけから著者の実父の死についての包み隠さない記述に心が抉られた。そしてこの本を読んだ暁に自分はどうかになってしまうのではと、漠然とした不安を覚えた。しかし読み進めていくうちに何とも言えない感情が溢れてきた。それは私が物心ついて以来、押し殺してきた寂しさ、悲しさ、虚しさといった負の感情だった。

私の父は30代半ばに「家庭内クーデター」に失敗して祖父から実家を追い出された。父は祖父のだらしない女性関係を悩む祖母を慮って祖父を家から追い出そうと画策して土壇場で祖母や兄弟たちから梯子を外され、返り討ちに合い、祖父のお妾さんが住んでいた別宅に追放された。周囲の裏切りで窮地に陥り、父は鬱状態に陥った。そんな父の失意の最中に生まれたのが私だ。父は私を可愛がってくれた。父は私を自らの不遇を忘れさせてくれる慰めとしたのだと思う。気性が激しく、気分を害すると周囲の人々に暴力的だった父だったが、私は父から手を上げられた記憶が全くない。私はそんな父を尊敬していた。父も私を自慢の息子として愛してくれた。しかし、私は父にただの一度も自分の悩みを打ち明け、弱音を吐いたことがなかった。同時に父も私に弱さを見せたことがなかった。しかし、父は齢八十を前に強迫神経症を患い、内から突き

上げる得体の知れない恐れに取り憑かれその人格が一変した。絶えずビクビクして、不安で目が泳ぐ父を前にして私は何を一体、恐れているのだろうかと思議でならなかった。その疑問にこの著書は答えてくれた。父の不安の正体、それは祖父との歪んだ関係性がもたらした子としての承認の欠如による自らの存在に対する不安だったのだ。この気づきは、間も無く私のうちにも同様の不安があることを教えてくれた。私も父から無条件に子としての承認を得ていなかった。父は私を条件付き(父に似て物おじしない大胆な性格)で認めていたのであって、実際は私が傷つきやすく、絶えず人の目を気にする小心者だということを知ろうとも、受け入れようとしなかった。その結果、私はいつか自分の正体を知った父に拒絶されるのではという不安を抱えて父と向き合えないで生きてきた。そんな父も今はこの世にいない。

「父となる旅路」を手にして、父なる神が御子イエス(その独り子)を喜び、尊んのように私をもキリストにある神の子(養子)として承認し、喜んでくださっているという真理を思い出させられ、心に深い慰めと喜びを感じた。すなわち御子イエスのバプテスマの際に、父なる神が御子に呼びかけた、「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」とは私への父なる神からの呼びかけでもあると実感したのだ。この体験は私に人生で初めて他者の拒絶を恐れない勇気をもたらした。それは承認欲求の蟻地獄からの解放だ。「父となる旅路」の著者に私は深い感謝と敬意を禁じ得ない。それは私に無条件の父なる神の愛に目が開かれるきっかけとその愛を受け入れる勇気を与えてくれたからだ。御子イエスが、私に証しして下さった父なる神の無条件の愛は、今、私に神への無条件の信頼をもたらしてくれた。

みことばを生きる



ニューヨーク ハーレムのゴスペルから JTJの学びへ

クリスチャン親和会 佐藤 ゆかり (愛知県)

私は賛美を通して神様を知り、救われました。幼少期より音楽を学び、子どもが大好きだった私は、20代から大手音楽企業の講師として、子どもの音楽教育に携わり、それは私にとって天職に思えました。この仕事に魅力を感じ、一生懸命取り組みましたが、まさか自分が人生のどん底を歩む日が来るとは想像もしていませんでした。

人生の試練とゴスペルミュージックとの出会い

人並みに結婚はしたものの、お互いに忙しくすれ違いが多く、結婚生活も長くは続かず、自分を攻める日が続き、天職と思っていた仕事までも手放すことになりました。

しかし、そんな私にゴスペルを指導するという道が与えられました。今から25年前、まだ日本ではブラックゴスペルを学べる場所が少なかった時代です。本物のゴスペルを学ぶため、なげなしのお金で、ニューヨークのハーレムに通い続ける日々が始まりました。そこでは、私に良くしてくださる方々に恵まれ、教会にも繋がり、礼拝にも参加していました。牧師からは熱心に信仰について教えられましたが、私はクリスチャンにはなれない!と10年間拒み続けました。

突然与えられた信仰告白

ところがある日、日本でのことですが、聖会に出席していた私は、いとも簡単に信仰告白をしました。それから3ヵ月も経たぬ間に受洗しました。いろいろな所を通り、また時間も要しましたが、すべてが神様のご計画であり、“時”であったことを理解しました。ゴスペルに出



NYハーレムで毎年開催されるコンサート Reach Week にて、長年サポートを続けている功績を讃えられトロフィーを授与される。



会う前から私の名を呼び、良いことで満たし続けてくださる主に、私の人生をかけてお役に立ちたいと、今は母教会の奉仕と、主が遣わされるところには進んでいくようにしています。

召命と献身と学びへ

今年4月に、Blessing Zionクワイア2023の一員として、多くの皆様の祈りとサポートを受けながら、ポーランドとイスラエルの賛美ツアーに送り出していただきました。神様はたくさんの語りかけをくださいましたが、中でもアルベル山で礼拝をお捧げた際、マタイ28章が強烈に心に飛び込んできました。「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。」

どん底から引き上げてくださっただけでなく、賛美を通して永遠の命を与えてくださる神様からの命令が「人々を正しく教えなさい!」でした。この旅を通して、自分自身がイエス様の弟子となるために、もっと聖書を学びたい、深く理解したい、という思いが与えられました。同居の両親の介助があるので、学びに不安もありますが、主が成し遂げてくださることを信じ、入学を決心いたしました。

日本から集められた賛美隊、Blessing Zionクワイア。イスラエル建国記念式典でも賛美!



筆者が主宰する、Harlem Japanese Gospel Choir 名古屋

まあるい地球からのHOT便 43



最高のパートナー(笑)と

教会刷新真っただ中! ~神のなさることは時にかなって美しい~

東洋宣教団 きよめキリスト教会 鈴木 陽子

ハレルヤ、主の御名を褒め称えます。

私は、3月にJTJを卒業し、4月から東洋宣教団きよめキリスト教会で奉仕が始まりました。若者で賑い韓国や多国籍のお店が並ぶ新大久保の地にポツンと小さな日本の教会。それが私の奉仕する教会です。4月当初は、ひっそりとした場所だけ異空間のようで、不思議な空気が漂う教会だなぁと思っていました。

礼拝は5、6人しかいなく、小さい声で聖歌が響きわたります。外の賑やかなさとは一変して静けさと共に、私にとって新鮮で心が落ち着く空間でした。教会員はほとんどがご年配の方でしたが、みなさんは、私たち夫婦を暖かく迎え入れて下さいました。

しかし、その新鮮でのんびりした空間は一瞬にして、変化しました。教会刷新がめまぐるしいスピードで進み始めたのです。それは神様にしか出来ないスピードです。

まず、1階をリフォームして、表通りに入口を作りました。そして、牧師室をなくしカフェスペースを作り、大胆にリフォームしました。リフォームは主人の働いている会社で行いました。2階の礼拝堂は、主人が音響機器を整え、礼拝のYouTube配信も始めました。主人とは、1年前に再婚したばかりですが、同労者としての息はいつもびったりなのか、主人が合わせてくれているのか……。分かりませんが、主人がこの教会刷新に大きく関わるようになったのは、全て神様の計画だと思っています。

私は、ホームページをリニューアルし、SNSを始めました。5月より2人の友達が教会に来始め、彼女たちの存在がまた、新たに刷新へのきっかけとなりました。私たちの目は、自然と歌舞伎町に目が向き、今年10月には女性のためのミニストリーを行う団体を立ち上げました。

私は、この期間に多くの出会いに恵まれました。必要な人が私の前に現れ、たくさんの方がサポートしてくださっています。主任牧師に、「神様のスピードは今とても早いから、振り落とされないようについて行こう」と言われ、神様のなさる事に圧倒されました。この期間に私は大きな失敗もしました。しかし、スピードは弱まる事なく、むしろ失敗によって早まっています。



筆者が主宰する、女性のための支援団体「Besties Mission イクテス」のみんなと

この教会刷新が進んでいる中、可愛い羊との出会いもありました。若い二人の女性が神様と出会う経過は、尊く初心に戻る心も与えられました。

私の教会は、神様が中田重治先生を選び、教会を建てられました。この歴史に誇る教会刷新は、良いものを残し、新しいものを怯まずに取り入れて行くことと、神様の導きによって進めて行くこと、そして祈りがあったことを実践の中で学びました。

今、教会には、不思議なくらいたくさんの方が訪れ、とても賑やかになりました。そして、今もなお、教会刷新の真っただ中です。

「神のなさることは時にかなって美しい」 (伝道者の書3:11)



教会に併設されたカフェの入り口

卒業生は今



キリスト教葬儀は 人生最期の証しの場

足立花畑キリスト教会牧師 町田 要一

JTJ宣教神学校はその名のとおりに、学んだ神学をもって宣教をする者となることを私たちに教えてくれました。そうした卒業生の多くは、主に示された各々の場所で開拓教会を始める者も少なくありません。私は足掛け9年にわたりキリスト教専門葬儀社で働きながら、そんな福音伝道に熱いJTJ宣教神学校を2017年に卒業しました。

卒業後は2007年から、妻がはじめていた開拓教会に牧会者として加わりました。そんな中、私がキリスト教葬儀社で働いていたことを知っている開拓仲間から、時々キリスト教葬儀についての質問の問合せが来るようになりました。

「枕辺の祈りはどのように?」「白黒の幕は?」「納棺の時の讃美歌は?」「塩の袋はいるの?」「お呼びする時はご家族?ご遺族?」「葬儀説教はどのように?」等等。特に卒業後、即開拓教会をはじめていた牧師は、教会での葬儀式に参列したことはあっても、教会の伝道師や副牧師として主任牧師に帯同して、キリスト教葬儀のはじめから終わりまでを経験している者は少ないようです。そこには葬儀全般に対する彼らの不安がありました。

召されたクリスチャンにとっては自分の葬儀はこの地上での最期の証しの場であり、それは二度目も無ければ、やり直しもききません。また私は葬儀社スタッフとして短い葬儀説教の中で故人の証しと、イエス・キリストの福音を語る先生方の苦心も見てきました。「そうだ、自分もそうであったように葬儀についての不安の、少しでも助けになるようなガイドブック的な入門書を書けないか」と思いました。

「なぜ葬儀屋で働こうと思ったの?」という質問の答えを第一部に、キリスト教葬儀で出会った「おひとりおひとりの証しの人生」を第二部に、そして「キリスト教葬儀の手引き/司式文例」を第三部にと、書き始めてからあっという間に6年が過ぎていました。出版はその原稿に目を留めてくださったイーグレープさん

より『いのちの遺言』として発行されることになりました。第三部の「キリスト教葬儀の手引き/司式文例」は従来の牧師専用の司式式文に加え、教会葬儀委員の方の葬儀式での司会文例も書かれています。葬儀においてその場面になったら、その該当箇所を開けば留意点・讃美歌・聖書箇所・祈祷・打ち合せ内容・ご案内アナウンスがわかる実用的なものになっています。これらが卒業生、特に開拓教会の仲間の、お役に立てれば幸いです。

